

## 倫理 研究課題 <西洋 06>

教科書：p      ～      資料集：p      ～      ノート：p      ～

### ●近代科学の誕生

宗教的権威から自由に自然を探究（＝脱呪術化）。（←常識を疑うことこそ学問の始め）

○コペルニクス（天動説から地動説へ）      ○ケプラー（惑星軌道の法則）

○ガリレオ（地動説支持など）      ○ニュートン（万有引力の発見）

### ●経験論（イギリス経験論）

知識：後天的な経験によって得られる

法則・原理：個々の事実（実験や観察）の検証（理性による吟味）から得られる（帰納法）

#### ①ベーコン

知は力：学問は、自然を支配することによって生活を豊かにするための手段

そのためには、自然に「学ぶ・従う」姿勢が必要。

1）さまざまの偏見（イドラ）の除去      （イドラ＝アイドル（偶像）の語源）

4つのイドラ：種族のイドラ、洞窟のイドラ、市場のイドラ、劇場のイドラ

2）科学方法論としての帰納法

ギリシアの「テオリア」のように不都合なデータを排除せず、実験・観察・記録・分析の4つのプロセスを経て、全事象を矛盾なく説明できる一般法則を導き出す。

#### ②ロック

白紙（タブラ・ラサ）：人間の生得時の心は白紙のようなもの。

さまざまな経験によって、白紙に絵が描かれるように知識が増える

#### ③バークリー

「存在するとは知覚されることである」

#### ④ヒューム

懐疑論：経験できないものは知り得ない（∴神の存在は証明できない）

因果関係：主観的には因果関係があっても、客観的には単なる先後関係にすぎない

★前回<西洋 05>で考えた、私たちが疑いもせず「そうだ」と思い込んでいるようなことは、それがイドラであるとすれば、それぞれ何のイドラに相当するか、話しあってみよう。

.....